

## 番組「写真は語る！6つの絆」を見て

先日のTV番組「写真は語る！6つの絆 奇跡をくれた感動物語」を見た。

取り上げられたエピソードの一つが、40数年前に仙台空港近くにあった療養所（自分の元職場の前身）にカリエス等で長期入院していた子どもたちと、療養所に迷い込んだ鳩が縁で交流が始まり、「飛行機に乗りたい」という夢を叶えたパイロットが、子どもたちを遊覧飛行に招待した折の写真に纏わるエピソードであった。

養護学校義務化以前の当時、子どもたちが療養している病室が、地域の学校の分教室として学ぶ教室を兼ねていたことから「ベッドスクール」と呼称されていた。

番組では触れられていなかったが、写真が縁で今は亡き先輩のひたむきな優しさを知った航空会社の後輩たちが社員から約100名のボランティアを募り、数年前に現養護学校の子どもたちを再び遊覧飛行に招待し、また、病状等から残念にもフライトに参加できなかった子どもたちには学校でフライトを楽しんでもらおうと、チェックインから搭乗、機内サービスなど、実際とほぼ同様の擬似フライトを演出・実施したエピソードもある。

自分としては40数年前のエピソードだけでなく、数年前の再招待遊覧飛行に繋がる「絆」のエピソードが番組で取り上げるものと思っていたのだが……。

40数年前のエピソードの数年後に、統廃合された病院に自分は就職したので、番組で取り上げられていた方々の名前が懐かしかった。

番組内のその一人である少年（当然、今は大人）とは先月街で偶然出会い、コーヒーを飲みながら院長先生のこと等を思い出しながらダベリングしたところであった。

院長先生については当HPでもしばしば触れているが、「ベッドスクール」の呼称を考え出したのも先生。

口数は多い方でなく我々に話があった時は既に先生自らが動いており、先生に「我が身の立場を越えてどうしてそう動けるのですか？」と尋ねると、「何事をするにしても、メリット、デメリットは付きもの。子どもにとってメリットが多いと思えば、自分に出来ることをすれがいい。」との先生の教えであった。

早速番組を見た元同僚からも、「院長の名前も出てきたし懐かしかった。あの機長さんの行動力と院長の実現させようとする前向きな姿勢が、この感動のドラマを作ったのでしょう。」とメール（抜粋）が届いた。